

# 指定管理者の令和7年度決算概要 — 魚沼基幹病院 —

- 経常収益は、入院診療収益の大幅な伸び（対前年+6.7%）などにより、139.9億円（対前年+9.4%）に達する一方、経常費用は、物価高騰等による経費の増加などにより、132.8億円（対前年+1.9%）となった。
- 令和7年度の当期純損益は、**+6.9億円**と3期ぶりの**黒字**となった。

（単位：百万円、%）

	令和7年度		令和6年度		増減額	
	決算 ①	医業収支 比率	決算 ②	医業収支 比率	③=①-②	増減率 ①/②
経常収益	2 13,988	115.8	12,783	114.4	1,205	9.4
病院事業収益	12,080	100.0	11,176	100.0	904	8.1
入院診療収益	2(1) 8,584	71.1	8,048	72.0	536	6.7
外来診療収益	2(2) 3,201	26.5	2,889	25.9	312	10.8
病院事業外収益	92	0.8	83	0.7	9	10.8
受取補助金等	1,737	14.4	1,437	12.9	300	20.9
政策医療交付金	1,468	12.2	1,358	12.2	110	8.1
国経済対策(賃上げ・物価)	190	1.6	0	0.0	190	-
その他収益	79	0.7	87	0.8	▲ 8	▲ 9.2
経常費用	3 13,284	110.0	13,041	116.7	243	1.9
給与費	7,281	60.3	7,398	66.2	▲ 117	▲ 1.6
材料費	3,199	26.5	2,909	26.0	290	10.0
その他経費	2,804	23.2	2,733	24.5	71	2.6
経常損益	704		▲ 258		962	▲ 372.9
経常外損益	▲ 17		▲ 5		▲ 12	240.0
税引前当期純損益	687		▲ 263		950	▲ 361.2
法人税等	0		0		0	-
当期純損益	1 687		▲ 263		950	▲ 361.2
累積損益	4 ▲ 1,734		▲ 2,421		687	▲ 28.4

## 1 当期純損益 6.9億円の黒字（R6純損益：▲2.6億円の赤字）

- コロナ期を除くと、初の黒字決算

## 2 経常収益 139.9億円（対前年+9.4%）

(1)入院診療収益 85.8億円（対前年+6.7%） ※過去最高

- 紹介患者増加に向けた取組強化のほか、救急の積極的な受入れ等により、入院患者数が増加
  - ・病床稼働率 R6：83.3% → R7：89.8%(+6.5㊦)
  - ・患者紹介率 R6：49.3% → R7：50.2%(+0.9㊦)
  - ・救急車受入れ R6：3534件 → R7：3866件(+332件,9.4%増)

(2)外来診療収益 32.0億円（対前年+10.8%）

- ・患者数 R6：822.9人 → R7：826.5人(+3.6人/日,0.4%増)
- ・外来診療単価 R6：16,739円/人・日 → R7：18,350円/人・日  
(+1,611円,9.6%増)

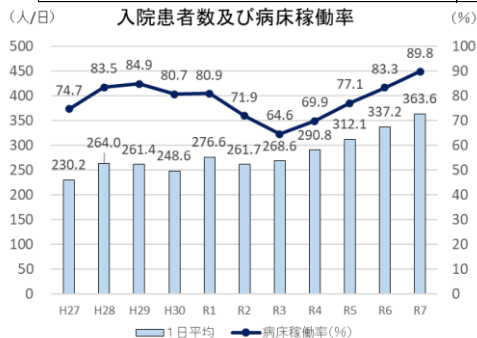
## 3 経常費用 132.8億円（対前年+1.9%）

- 物価高騰が進んだが、各種手当の見直しや材料費・委託費等の交渉強化に努め、前年度から2.4億円の増に抑えた

## 4 累積損益 ▲17.3億円（R6：▲24.2億円）

## ■入院診療

	R6年度	R7年度	比較
入院患者数 (人/日)	337.2	363.6	+ 26.4
病床稼働率 (%)	83.3	89.8	+ 6.5
入院診療単価 (円/人・日)	64,165	63,952	▲ 213



● 救急の積極的な受入れや周辺医療機関への患者紹介依頼を行ったほか、診療科別の稼働病床目標管理の徹底などにより、病床稼働率が大幅に増 (+6.5%)

- ・入院患者数 26.4人/日の増
- ・入院診療単価 213円/人・日の減

## ■外来診療

	R6年度	R7年度	比較
外来患者数 (人/日)	822.9	826.5	+ 3.6
外来診療単価 (円/人・日)	16,739	18,350	+ 1,611

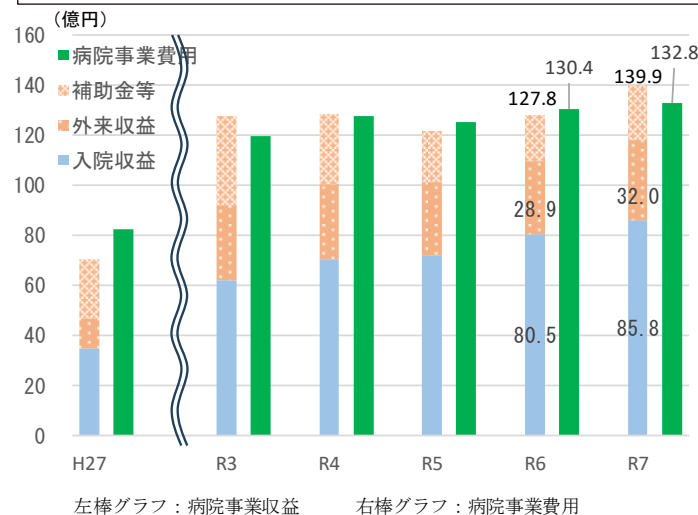
● 外来での新規抗がん剤を使った治療を行う患者が増えたことなどにより、診療単価が増 (ただし薬価も増)

## ■紹介・逆紹介率

※紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100  
 ※逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100

	R6年度		R7年度		比較	(参考) 地域医療支援病院承認要件	
紹介率 (%)	(6,067人)	49.3	(5,805人)	50.2	+ 0.9		50.0
逆紹介率 (%)	(8,383人)	68.1	(8,162人)	70.6	+ 2.5		70.0

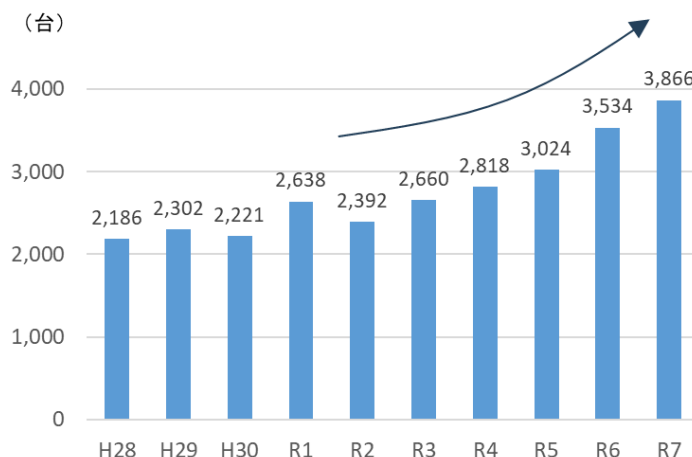
## ■病院事業収益及び費用



● 入院診療は、85.8億円となり、過去最高額を更新

● また、各種の見直しにより、費用の増を2.4億円に抑えることができたことから、収支が大幅に改善

## ■救急車搬送件数



● 救急の積極的な受入れにより、搬送件数も大幅に増 (332件増)

● これにより、入院患者増に繋がっている

# 魚沼基幹病院の経営改善の取組 – 病院一丸となった経営改善の実施により黒字化に成功 –

- 物価高騰や燃料費の高止まりなどの影響により、病院経営は危機的状況

## 経営改善プログラム (R7.2月)

- R9年度での収支改善を目指し、持続可能な病院運営を実現する

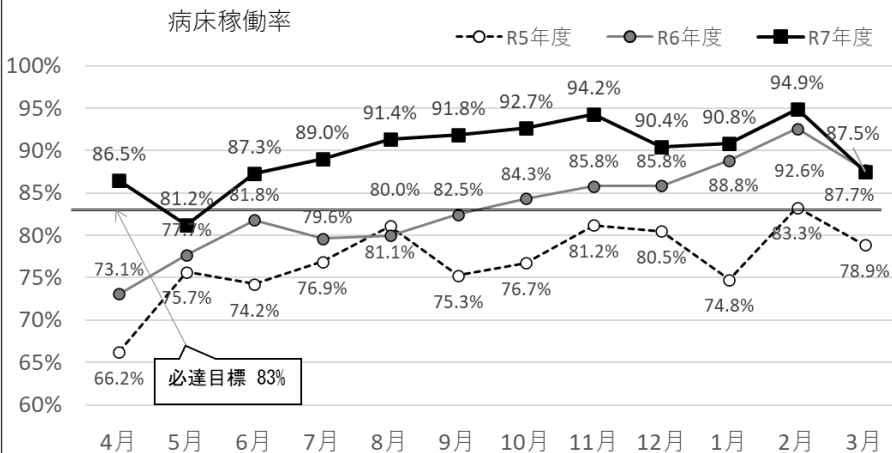
### R7年度の取組実績

- 病院一丸となった取り組みにより、経営改善プログラムの目標 (▲1.1億円) から大幅な改善(+6.9億円)に成功

(病院事業収益の増)

- ・ 全診療科長、病棟師長、事務部等が参加するベッドコントロールチーム会議を毎週1回10分間実施し、院内状況を共有したうえで、退院調整等を実施
- ・ 地域の中核病院として求められる診療を実施し、これを周辺医療機関へ周知したほか、医師同士の連携を推進することで、患者増につなげた
- ・ 救急の積極的な受入れによる患者増

→ 病院事業収益が約9.0億円の増



### 今後実施する更なる取組

- 物価等の上昇が、依然として続いており、R8報酬改定後も病院経営は、油断できない状況 → 経営改善の取組を継続することが肝要

#### ① 収益増の取組

- ・ 医業収益の確保 (システム導入等によるベッドコントロールの更なる推進)
- ・ 土日リハビリの実施  
(理学療法士の追加採用で、現在の土曜日ハを土日リハに拡大)

#### ② 費用減の取組

- ・ 各種手当、運用等の見直し (幅広く見直しを実施)
- ・ 費用の適正化 (委託・薬剤・診療材料の見直し等と、費用削減に特化したコンサルの活用)

### ■ 経営改善プログラムによる効果額

(経営改善の取り組みを行わなかった場合の見込みと目標額及び決算額の比較) (億円)

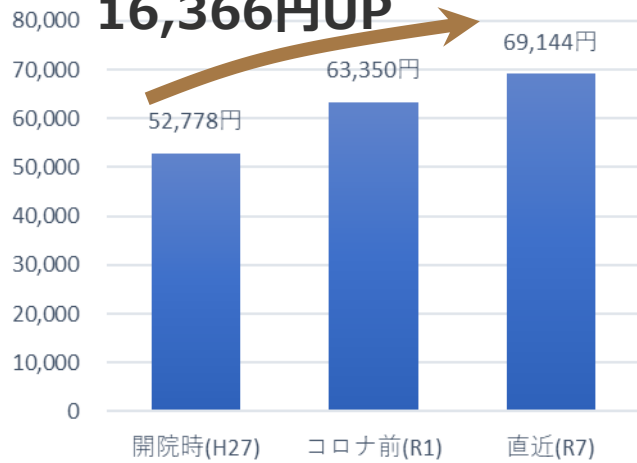
	経営改善の取り組みを行わなかった場合(a)	実施目標 (b)	決算 (実績) (c)	改善プログラムの効果額(c-a)
R6	▲7.9	▲7.3	▲2.6	+5.3
R7	▲7.2	▲1.1	+6.9	+14.1
R8	▲9.7	0.0		
R9	▲12.4	+0.1		

今後も経営改善の取組を継続する

# (参考) 数字で見る魚沼基幹病院

## 入院診療単価 (精神科除く)

**16,366円UP**



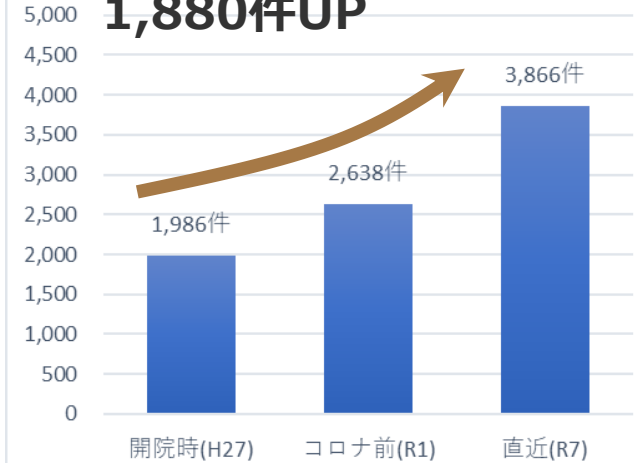
## 外来診療単価 (精神科除く)

**5,715円UP**



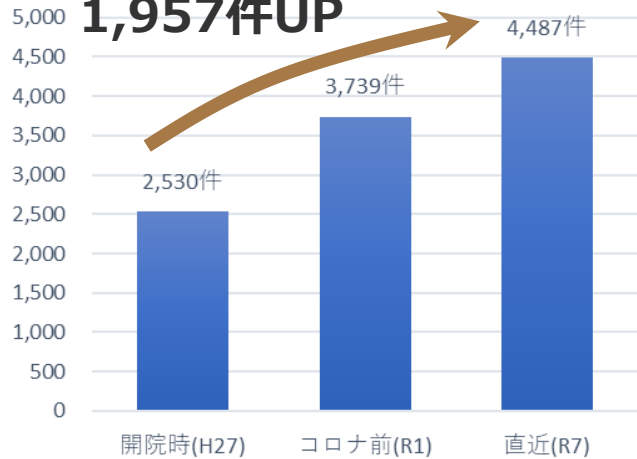
## 年間救急搬送受入数

**1,880件UP**



## 年間手術件数 (手術室内)

**1,957件UP**



## 病床稼働率 (精神科除く)

**12.6%UP**



## 医師数 (臨床研修医含む)

**29人UP**

